

めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い人とのつながりを
大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び、進んで
実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標

地域・家庭・学校が一つとなって、田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

今年度も新型コロナウイルス感染症対策で例年通りとはいかない状況でしたが、「田原の子どもたちは、田原に住むすべての人で育てる」という考えに基づき、「交通安全立哨活動」「どんごが丘整美作業」、「田原ふれあい夢花壇」など児童生徒が安心・安全で心地よく学校教育に臨めるように、児童生徒とともに学習環境の整美に努めています。また、学習支援活動として、外国語の授業補助「外国語科授業支援」、放課後の学習支援「田原放課後学び舎教室」、地域に伝わる伝統文化の継承「祭文音頭の指導」等を行いました。



祭文音頭学習中

また、地域の方々と共に行う「田原合同大運動会」・「どんごが丘フェスティバル」は実施できませんでした。しかし文化鑑賞会や人権講演会などは、学校運営協議会・地域教育協議会の委員15名の授業参観という形で、短時間でしたが参加いただきました。昨年度より取組を始めたベンチプロジェクトにおいては、ベンチを地域の皆さんに活用していただくことについて、自治連合会会長にお越しいただきアドバイスを頂きました。



自治連合会長さんと記念写真

【今年度のまとめ】

田原は、豊かな自然や伝統文化を地域の努力によって現在にまで引き継いでいる地域です。これまで学校では「よく考え、よく学び、進んで実行できる児童生徒」「思いを伝えあい、人とのつながりを大切にする児童生徒」「ふるさとを愛し、誇りとする児童生徒」の育成を目標に、様々な活動に取り組んでいます。地域教育協議会では、人材の育成が大切であると考え、学校の教育活動を支援してきました。今年度は、テーマを定め、地域と学校がそれぞれの考えを共有できるように地域教育協議会で話し合ってきました。未来を生きる子どもたちに付けたい力を今後も共に考え、学校とともに「田原の教育」がさらに充実したものになるよう取り組みたいと考えています。

【来年度に向けて】

近年、田原地区では少子化・高齢過疎化が一層すすんでおり、学校においても、それにとまなう児童生徒数の著しい減少がみられますが、令和2年度から奈良市特認校制度により、田原小中学校に他校区の子どもが就学することができるようになりました。田原小中学校の特色ある取組を深めるとともに、内外にそのよさをアピールし、地域、学校がより魅力あるものになるよう、地域と学校が連携協働した事業の運営を進めていきます。

めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い人とのつながりを
大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び、進んで
実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標

地域・家庭・学校が一つとなって、田原の教育に取り組み、将来地域活性化の中心となる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

田原小中学校では、施設一体型小中一貫教育校としての特性を生かし、前・中・後期の各ブロックの発達段階に応じた特色ある活動に取り組んでおり、児童生徒は上級生をモデルとすることで、自ずとブロックの中でリーダーとしての素養が育成されています。今年度も、新型コロナウイルス感染症により、多くの活動が中止されましたが、下級生たちは上級生を見てきちんと成長を遂げています。今年度は、キャリア教育にも取り組むことが出来ました。本校の起業家プログラムの「三種の神茶」のお茶づくり作業や、職場体験学習を実施しましたが、第5波の流行が深刻になり始め、予定していた活動が出来ず、校内で業務員さんの仕事や小学校の先生の仕事について学びました。また、今年度も「ベンチプロジェクト」に取り組みました。今年は卒業制作に限定せず、出来上がったベンチを地域の方々に利用していただく計画を進め、自治連合会長さんをお招きし、実施にむけてアドバイスを頂きました。これから後に、公民館のスペース、養護施設・福祉施設への設置や田原やま里市場へ置かせていただく予定をしています。



【今年度のまとめ】

学校では、「9年間の連続性・継続性を生かした一貫教育を行い、豊かな心と確かな学力を身につけた世界にはばたく人間を育成する」ことを学校教育目標に据え、教育活動を進めてきました。

これまで、地域と学校の間では、教育目標の実現に向けて多くの意見交流を重ねながら、活動支援にあたっていただきました。今年度は新型コロナウイルス感染症により地域の方々との活動が制限されましたが、やはり、大切なことは、学校と地域とのつながりを強化し、地域の学校教育への関心を一層高めることであると考えています。

【来年度に向けて】

今年度も、地域の方々のご協力によって、取組を進めることができました。一方で、今後の活動の継続に向けて、コーディネーターやボランティアスタッフの高齢化が問題となっています。また、学校・地域との交流を通して、少子化・高齢過疎化という学校・地域の抱える共通の課題解決に向けて、取り組む必要性について、改めて確認することができました。今後は、より多くの方々に積極的に関わってもらえるよう、事業内容の工夫や、参画・運営方法の改善を図るとともに、特に保護者世代への呼びかけを積極的にすすめることで、学校・地域の活性化につなげていきたいと考えます。

めざす子ども像

- ・ ふるさとを愛し、誇りとする子ども
- ・ 思いを伝え合い人とのつながりを
大事にする子ども
- ・ よく考え、よく学び、進んで
実行する子ども
- ・ 人や自然を愛し、心をかよわせ合う子ども

取組目標

地域・家庭・学校が一つとなって、田原の教育に取り組み、
将来地域活性化の中心となる人材を育てる。

【今年度の取組紹介】

今年度は学校閉鎖期間もなく、例年の授業時数を無理なく実施できました。しかし、現在も収束の兆しがまだ見えないオミクロン株によるコロナ禍では、児童・生徒の感染数が大部分を占めることでボランティアに来てくださる方々が、躊躇されている現状があり、例年のように地域の方々とのふれあいや合同作業を実施することは出来ませんでした。低学年の11月の花苗集会は、例年のように民生児童委員さんと一緒に実施できました。中学年では田植え・稲刈りともに行うことは出来ませんでした。お茶の学習を11月に実施しました。



中期ブロックにあたる6年生は、矢田原にお住いの方に、案内していただきながら国見山登山を行いました。事前に登山道までのゴミ拾いや国見山の学習を続け、田原の魅力あるポイントにする取組を行いました。中学生のベンチプロジェクトに力を貸していただいている建具師さんに木材を準備して頂き、ハイキングに来られた方に分かりやすい表示板を作成し、設置する取組を始めました。次年度早々に設置のため登る予定です。



【今年度のまとめ】 田原地区は豊かな自然や伝統文化が地域の方々の努力で現在にまで引き継がれてきています。小学校は「ふるさとや自然を愛する心を育てる」「地域に伝わる文化や伝統を守り伝える」そして、子どもたちが気付いた田原の魅力を発信する取組を様々な方の力を借りながら行っています。また、中学校と施設一体型の小中一貫教育校の特色を生かし、中学生の取組を参考に今、自分たちができることを考え、取り組んでいます。このことが地域を支える次の世代の人材育成につながると考えています。そのためには、地域と学校が連携協働して、子どもたちを見守り、地域とのつながりを大切に「ヒト・モノ・コト」のかかわりを通して、ふるさとや自然を愛する心を育てる取組を進めることが大切であると考えます。

【来年度に向けて】 これまでの取組を継続し、充実した取組になるように改善を図っていきます。奈良市特認校制度により他校区の子どもが田原小中学校に就学しています。田原小中学校の特色ある取組を進めるとともに、内外にその魅力をアピールし、地域と学校が連携協働した事業の運営を行っていきます。